

A005

- T: はい, じゃ, えーと一, 【T】です。  
よろしくをお願いします。
- I: 【I (フルネーム)】です。  
よろしくをお願いします。
- T: 【I (フルネーム)】さん (はい)。  
【I (名)】, 何てよん\*\*\*\*, 【I (姓)】さん, 【I (名)】さん, どっちがいいですか?。
- I: 【I (名)】さんでお願いします, {笑}。
- T: はい, わかりました, 【I (名)】さん。  
【I】さんは, えーと, 今おいくつですか?。
- I: 今17歳です。
- T: 17歳 (はい), いいですね, すてきですね, 青春真ただ中 (いやいや)。  
高校生?。
- I: あ, 高校2年生です, はい。
- T: 高校2年生なんですか。  
えー, 高校生活はどうですか?。
- I: \*, 楽しいですね。  
もう, すごく忙しいんですけど (うん), \*, 勉強, ま, 毎日, もう, 親も, 教師も, 勉強, 勉強, 勉強 (ええ, ええ) って言うんで (ええ), すごく忙しいんですけど, でも, ま, 学校に行けば, 友だちとか, 毎日, わいわい (うん) 騒いだりして, 結構楽しいです (うん)。  
ま, 充実してますね (うん), はい。
- T: クラブ活動とかもあるんですか?。
- I: あ, 美術部です。
- T: 美術部?。
- I: はい。
- T: ほー。  
あの, 前から, もう, ずっと前から絵をかいてるんですか?。
- I: え, 中学校も美術部で (ええ, ええ), 結構小さいころから, あの, 絵かくのが好きなので (へー), はい。
- T: どんな絵をかくんですか?。
- I: そうですね (うん), 中学校のとき一番かいていたのは, たぶん水彩画とか, あと, 油絵もちよっとかいてみたんですけど (うん), ま, \*, うーん, 主に水彩画とか, あとデッサンとか (うん), はい。
- T: その, だ, 題材はどんなものを?。
- I: あ, 題材?。
- T: うん。  
ま, あたしは, あの, 空想画がとにかくかかなくて (ええ), {笑}, あの, いつも, \*, 物を見てかく, っていうほうが, ま, と, どちらかといえば得意ですけど (はい), うん, 空想画って自分で考えてイメージして (ええ, ええ), ま, かくのが, すごく苦手で (うん), 全然できません {笑} (んー)。
- T: 空想画をかくように, なんか, 求められることあるんですか?。
- I: いや, 特にそういうわけじゃないんですけど (ええ, ええ), なんか, いつも風景画とか (はい), 静物画とか (ええ, ええ), かいてたりしてたので, あの, たまには空想画もかいてみようか, って (うん) なったときに, うん, 全然浮かんでこなくて (うん, うん), もう, うん, すごく, こう, 困ってました (笑), {笑}, はい。
- T: 今までかいた絵で, 一番好きな絵っていうのは, どんな絵なんでしょう?。
- I: そうですね, あの, 中学校2年生のときに (うん), 宿泊研修で, あの, 【施設名】 (はい), ん, に行ったんですよ。  
そのときに (うん), あの, 階段があって, その階段の横に, あの, ツツジが咲いてて, \*, すごくきれいで (うん), そ, その写真を撮ってきて (うん), \*, 階段の写真 (うん) を撮ってきて, その写真をかいた絵が一番好きですね (うん)。
- T: それは, その写真, 見た感じっていうか, その, 色, 写実的な絵をかくんですか?。
- I: あ, はい (あー)。  
うーん, できるだけ, こう, うん, 実物みたいな, こう, しゃ, 写真に近い感じで (んー) かいてた (は

い) なんですけど、それが、わたしは一番好きですね〈んー〉、はい。

T: あの、だれか有名な画家とかの絵は見ますか？

I: いや、あ、ほれ [それ] は、あんまり見てないですね〈んー〉。

うーん。

T: じゃ、美術部っていうのは、たくさん人数がいるんですか？

I: あー、結構、あたしの学年は、結構いるんですけど、たぶん10人くらい〈んー〉いるんですけど〈うん、うん〉、と、こ、先輩はあんまり、\*、たぶん5人くらいしかなくて、1年生もそのくらいで〈うん、うん〉、うん。

まー、でも、だいたいみんな、その、部活に行く、その、なんていうの、その、時期が全部コンクール直前なので、あんまり、普段はあんまり行かないんですけど〈んー〉、高校入ってからは〈うん、うん〉。

んー、中学校のときは、あの、毎日行くように、って、あの、強制的な〈うん、うん〉感じだったんで〈うん〉、もう、毎日行ってたんですけど〈んー〉、も、高校入ってから、なんか、うーん、なんか、べ、勉強忙しいから、とか言って〈んー〉、\*、結構さぼり気味なんですけど {笑} 〈{笑}〉。

T: そうすると、あの、勉強と、その、部活の両立っていうのは、すごく大変ですか？

I: そうですね、あの、コンクール直前になると〈ええ〉、もう毎日5時とか、6時とか〈ええ、ええ〉まで残って、うーん、一番遅いのが、たぶん7時半とか、そこらへんまで残ったときもあって、うーん、そのときに、その、あしたの予習とか〈うん〉、宿題とかは、結構遅くまで、12時とかまでや、やらなきゃいけないときがあって〈うん〉、それも結構大変ですけど、でも、あの、宿題って、1回たまったら、もう、どんどん、どんどん、どんどん、その、先に、こう、もう、どんどん、どんどんたまってる、すごい、こう、收拾がつかなくなるんで {笑} 〈{笑}、ええ〉、うん、それで、すごい、こう、つらい思いをした経験があるので〈はい〉、できるだけ、こう、ためないように〈ええ、ええ〉してます {笑} 〈ほー〉。

T: あの、美術部を、その、お、親御さんも学校も、一生懸命勉強に力を入れてるって中で、美術部をやめなさい、とかいわれたことはないですか？

I: それはないですね〈んー〉、はい。

親は、うーん、なんていうんだ、なんかこう、ま、好きなようにしていいよ、って〈んー〉感じなんで、大学とかも、\*、好きなところ、行っていいよ、って言うてくれて〈うん〉、と、教師はそういうことは全然、教師はどちらかといえば、あの、部活に入りなさい、っていう感じなので、全然、ん、そういうことは言われないですね〈うん〉。

T: え、先生が、部活に入りなさい、っていうのは、どういう意味なんだろうかね？

I: あー、なんか、うーん、こう、部活に入ると〈はい〉、その一、なんというんだらうな、こう、せ、精神力〈はい〉、なんか、ちょっと、鍛えられるんだそうです〈ん〉。

で、なんか、あんまり、こう、うちの学校は、たぶん部活に入っていないと、もう毎日勉強ばかりで、うん、たぶん、きつとつまらないと思うし、あの一、なんというんだらう、なんか、部活に、あの、特に運動部なんですけど、うん、そういう部活に、運動部とかに入っていると、こう、こう、精神力が鍛えられる、って〈んー〉言うんですけど、まー、あたしはよくわかんないんですけど〈うん〉、うん、なんか、そういうふうに先生が言うて〈んー〉、だから勉強もがんばれるようになるよ、って、は [わ] 言うてました。

T: じゃー、【I】さんにとっての部活の意味は、どういう意味がありますか？

I: そうですね〈んー〉、趣味ですか\*。

T: 趣味。

I: {笑} 趣味ですね〈うん〉、うん。

やってて楽しくて〈ええ、ええ〉、うーん、まあ、賞とかに入ればうれしいし〈はい〉、うん、展示とかされれば、うん、もっとうれしいし〈ええ、ええ〉、うん、あと、やっぱり一番、その、\*、うん、なんか、こう、やってて、やっぱり楽しいです〈んー〉。

うん、絵、絵、かくのが、そ、その、すごい好きなんで、すごく、こう、楽しいですね、かいてて。

T: 楽しいことをする時間、っていう。

I: はい。

T: うん。

じゃ、勉強はつらい時間なんですか？

I: 勉強は、すらすら解けてたら〈はい〉、つらくはないんですけど〈ええ〉、ま、数学とかは特に、あの、わからない問題が出てくると、もう、ああってなって〈はい〉、あ、もうやりたくない、ってなるんですけど〈え

え), でも, うん, ま, そういうのも, 全部, こう, うん, 解決するために, こう, がんばって, なんか, あの, 参考書とか見て, 教科書見て, あ, こういうふうに解くんだな, って, こう, \*, 理解したときは, やっぱり, なんか, ちょっと, こう, 達成感が〈んー〉感じられて, うん。

だから勉強も, ま, どちらかといえば, そんなつらい, くはないんですけど, ま, やっぱり勉強より楽しいことっていっぱいあるので〈うん〉, うん, どうしても, うん, いつもはそっちを優先してしまって, 考査の前に, ああ, や, や, やっとけばよかったとかって〈{笑}〉, なって{笑}, うん。

T: 勉強以外の楽しいこと, っていうのは, どんなことですか？

I: えー, テレビとか〈はい〉, 音楽とか〈あー〉, 漫画とか〈はい, はい〉, {笑}, はい。

T: え, 漫画もよく読むんですか？

I: よく, じゃないんですけど〈はい〉, うーん, 最近, あの, 一番好きな漫画が〈ええ〉終わってしまって, {笑}。

T: 何ていうんでしょう？

I: あ, 【作品名1】っていうんですけど。

T: あー, なんか, 聞いたことはあるんですけど〈はい〉, どんな漫画だったんですか？

I: あ, なんか, こう, 読んでて, こう, 人生を教えてくれる感じの, {笑}。

T: こう, あらすじを, ちょっと…

I: あの…

T: あの, 教えていただけますか？

I: あ, はい〈はい〉, あの, なんか, 十二支, あるじゃないですか〈はい〉。

その, 物のけにとりつかれた〈ええ〉12人の人がいて, で, もう1人は猫の物のけがついて, でー, まー, 13人の, その, 特別な感じの, その, すごい, こう, 一族が, ソーマっていう, いち, 一族があつて, その中でも, なんか, こう, 秘密にされて, その, 13人の存在が, で, うーん, なんか, その, その13人は, 特になにか能力があるわけじゃないんですけど〈ええ〉, みんな, うーん, \*, 異性に抱きつかれると, その, 自分の, 例えば, 犬つきの人は犬に変身してしまう, っていう〈ほー〉感じで〈はい〉, で, 弱ったりすると, うん, その変身してしまうっていう〈んー〉, うん, あれなんですけど。

で, だから, うん, なんか, 髪の毛の色も, 変な人がいっぱいいるの, オレンジ色だったり, 白だったりして, だから, こう, 普通の高校とかに, 普通の学校〈はい〉には行け, 行けなくて〈んー〉, 万が一, こう, 異性とぶつかったりすると〈うん〉, それがばれて大変なことに〈うん, {笑}〉なるので, うん, 普通の学校にも行けなくて, なんか, 親も, その, 母親, 特に母親のほうなんですけど, その, 自分の子どもを, こう, 抱いてるときに, 子ども変身するじゃないですか, {笑}〈{笑}, はい〉。

そうすると, すごく, いやな気分になつて〈んー〉なって, \*の, 親は, うん, こう, 子どもを, こう, 突き放したりするんですよ〈はい〉, この十二支の〈ああ〉親が。

で, うん, まー, それで, その, その13人の人は, まー, な, なんていうんだろう, こう, 生まれてからずっと, こう, そ, その十二支としての〈\*\*\*〉, その, 運命を〈んー〉い, 生きていて, みんなすごく, こう, つらいことがいっぱいあって〈んー〉, やっぱり, うん, 親に突き放されると, もう, なんていうんだろう, こう, いっ, こう, なん, なんていけばいいんだろう, うーん, もう, やばいじゃないすか〈うん, {笑}, はい〉, {笑}。

なんか, もう, あの〈んー〉, こう, 生きていきたくないとか〈んー〉, 考えちゃうじゃないですか。

特に, こう, 子どもにとっては〈うん〉, やっぱり, 親が, なんか, すべてだったり〈んー〉するじゃないですか。

うん, だから, うん, その, 小さいころから, \*, つらい思いをいっぱいして, でもみんなすごくいい人たちで〈んー〉, で, そんな, じゅ, 12, 13人の人に, あの, ホンダトオルっていう女の子が, 普通の人なんですけど, その人が, その13人に会って, その秘密を知ってしまって〈うん〉, あー, なんか, 話す\*長くなる, あ {笑}〈{笑}〉。

あの, その13人〈はい〉にとっての, その, あるじがいて〈ええ〉, 要は, その, 神様の存在〈はい〉がいて, その13人は, その, 神様にさ, 逆らえなくて, その神様は, なんか, すごく, こう, なんていうんだ, 本当は, うーん, なんか, その, 神様は, うん, ま, いろいろ事情があつて〈うん, うん〉, ちょっと, こう, 変わって, だから, うーん, その神様もすごく, こう, 寂しい人で, その, 十二支と自分の, 自分の, その, 絆〈はい〉がすべてだ, って思い込んで, 自分のすべてなんだ, って〈んー〉思い込んで, だから, その, 十二支をすごく, こう, 縛り付けて〈うん〉, 最後はみんなどこに行こうか, 最後はじ, 僕

の場所に戻ってくるんだ、って言ってて、うん。

でも、そんなの、なんか、\*、十二支って結構前からずっと、こう、続いてきてて、\*、なんていうんだろうな、こう、う、生まれては、死ん、その、犬つきの人が…

T: あー、長ーく〈そう、そう {笑} あるうちの極一部〈そう〉だった、っていう。

I: その人が〈んー〉、その\*、死ねば、\*、また犬つき〈はい〉の人が生まれてきて、っていう感じで〈あー〉、はい。

\*、神様もずっと〈ええ〉生まれ変わってきて、で、その…

T: \*、どこが、そういうふうに、すごく好きだったんですか？。

I: そうで\*、あの一、やっぱり、こう、あの一、ホンダトオルっていう主人公〈ええ〉が、\*、彼らと出会って〈うん〉、なんか、彼らをすごく、こう、傷ついていて〈うん、うん〉、うん、で、その傷を、なんか、癒すっていうか、すごく、こう、なんか、その人たちの、その、問題を〈んー〉1つずつ、こう…

T: 解決。

I: 解決〈んー〉して行って、で、最後には、なんか、その、絆っていうか、呪いっていうか〈んー〉、も、解けて、うん、みんな幸せになって〈んー〉、もう、最終回も、も、こん、あの、ティッシュのそばで、もう、こ、こんんで {笑} 〈笑〉、もう、しくしく泣きながら読んでたんですけど。

T: んー、そうなんですか。

I: はい。

T: で、漫画って、なんか、大人の世界から見ると、なんか、こう、くだらない、っていうか、時間の無駄、みたいに〈あー〉、思われる人がいるんですけども〈はい〉、漫画を1つの、こう、文化として考える、っていう〈んー〉考え方もありますけど、どう思います、あ、【I】さんは？。

I: そうですね〈んー〉。

漫画にもよるんですけど〈うん〉、ま、どちらかといえば、文化なんじゃないですかね。

なんか、あたしはやっぱり、その、読んでて楽しいし、ま、でも、\*、ものによります {笑}。

漫画にもよりますし〈ん〉、うーん…

T: じゃ、どんな漫画だったら文化と認められますか？。

I: あたしが好きな漫画 {笑}。

T: {笑}、わたしが好きな漫画を〈えー?〉、こう、うまく説明すると、どういう特徴があるんですか？。

I: あんまり、こう、決まった、こう、き、決まり、っていうか、規則は、な、ないような、うーん。

あたしは、そんなに知らない〈んー〉から、うん、ま、【作品名1】みたいなのも好きだし〈んー〉、あとは、そうですね、\*、単に、こう、考えさせられるとか、そういうんじゃないで、こう〈うん〉、人生を教えてくれるとか〈うん〉、そういうんじゃないで、うーん、ま、【作品名2】とか、\*、なんか普通に、こう、読んでて、あ、面白いな、って〈んー〉、ほんとに思えるような〈んー〉、ほんとに、こう、読んでて、こう、リラックス、みたいな〈んー〉感じの漫画もやっぱりいいと思います。

T: \*と、反対に、あの、非常に残虐な漫画もあって、それが、あの、子どもたちに悪影響を与える、っていう考え方もあるんですけど、そういう〈あー〉、ん、そういう漫画は禁止すべきだ、とか、出版すべきじゃない、とか、そうふうには、どう思いますか？。

I: そ\*、思いますね、なん〈んー〉、やっぱり、あの、なんか、こう、例えば、こう、あの、戦ってて〈うん〉、こう、手を切って〈はい〉、とか、血いっぱい流して、とか、そういうのは、やっぱり、うーん、子どもは読まないほうがいいと思いますね〈んー〉。

なんか、やっぱ、乱暴すぎるし〈んー〉、なんか、リアルすぎて、うん、あたしはあんまり好きじゃないです。

T: で、子どもが読まないようにするためには、どうすればいいんでしょうか？。

I: えっ〈{笑}〉、それは、子どもが読まないようにするために…

T: うん、今すべきだ、っておっしゃったけれど〈{笑}〉。

でも、すごく、あれだけ売れてるんだから、なんか、子どもを〈まー、そうですね〉ひきつけるものがいっぱいあって、うん。

I: えー、\*、親が、こらーとかって言っても、たぶん、ま、こっそり読むのが子どもだ〈{笑}〉と思うんですけど〈んー〉、うん。

よくわかんないです {笑}。

T: よくわから、はい。

でも、たぶん、今みたいな価値観、っていうのかな、こういう漫画とか、ああいう漫画っていうふうな、【I】さんの中にある価値観っていうのは、あの、なんか、たぶん、育ってくる中で、そだ、あの、できたんだと思うんですけど〈んー〉、どういう影響が、どういう育てられ方、または、育ち方をしたことで、そういうものができたと思いますか？。

I : そうですね〈んー〉、やっぱり、わたしは小学校6年生のとき〈んー〉まで、中国にいたんで〈うん〉、こう、すごく、ほんとに、それこそ、こう、中国の教育の仕方をずっと受けてきて〈うん〉、\*、中国の教育の仕方っていえば、もう、勉強して、大学に行って〈うん〉、いい仕事につけ、っていう〈うん〉感じで、うん、まあ、あたしも、ま、小さいころからずっとそれを言われてて、で、やっぱり、あの、小さいころって、あの、まわりの大人の言うことは、なんか、こう、自分のすべてだったり、それが、それに逆らえなかつたりするので、ま、それが全部、こう、正しいことだと思うじゃないですか〈はい〉、子どもは。

だから、うん、まあ、そういう感じなんだな、っていう感じで、も、\*、ん、一生懸命、こう、勉強、がんばったわけじゃないんですけど {笑} 〈{笑}〉、はい、うん〈\*〉、うーん。

T : その、中国の教育をそこまで受けてきて、日本に来て、ちょっと違いますよね、教育現場のやり方が？。

I : はい。

T : で、その違いは、どう、ふうに、どんなことが違いますか、大きくは？。

I : そうですね〈うん〉、日本は、やっぱり自由ですね〈うん〉。

なんか、こう、あの、例えば、り、理科で〈はい〉実験をやって、で、考察、書か、うん、されてたりするんですけど、そういうのも、中国でほとんどやってなくて、うん、ま、最近は結構やってる学校が増えてきてるみたいなんですけど、あたしが、通ってた学校は〈ええ〉、もう、まったくそういうの、なくて〈ん〉、うーん、なんというんだろう、例えば、その、酸素と水素で水ができる、っていう。

T : はい。

I : {笑}、っていうのは…

T : あ、もう知識を与える、うん。

I : はい、もう、もう、ほんとに、そう言って〈うん〉、\*、そう、教師が教えて〈はい〉、で、子ども、あ、はいって言って、覚えます〈んー〉、みたいに、感じなんですけど、日本は、なんか、こう、実験をさせて〈うん〉、あ、ほんとだって〈うん〉、わーい {拍手をする} ってなってから、\*の、覚える、っていう〈んー〉、うん。

でも、日本のほうが、ま、楽、ってば、楽かもしれないんですけど、うーん、なん、うん、はい。

T : ただ、ま、うん、今、日本の教育も、すごく、こう、学力が低下してるとか、教育の現場が〈んー〉、あの一、いろいろ、いじめがあったりとか〈んー、はい〉、そういう問題が起きてるときに、今、中国と日本と、両方、を、あの、知ってらして、日本の教育現場を、こう、かい、変えていくとしたら、どんなことができると思いますか？。

I : そうですね〈んー〉、やっぱり、中国では、たぶんいじめはあまりない〈んー〉と思います。

人がいっぱいいても、人がいっぱいいるぶん、その、合わない人とか、いっぱい出てくるじゃないですか〈うん、うん〉。

でも、そういう環境の中でも、たぶん日本よりは、\*、いじめっていうことは、すごく少ないと思います〈うん〉。

で、なんでか、といえば、うん…

T : そして、そう、そういう状況を〈{笑}〉日本で作る、その、自由を尊重しつつ〈んー〉、作ってくには、どういうことが足りない、もしくは、どういうことを変えていったらいいんでしょう？。

I : 自由を尊重しつつ…

T : うん、さっき、そこがいろいろ〈{笑}〉、あの、い、言ってたから。

I : いや〈んー〉、うん、でも日本は、たぶ、あの、自由すぎると思います〈あー、はい〉。

日本は、うん、なんか、こう、好きなように〈うん〉生きていいですよ、という国じゃないですか。

T : \*…

I : もはや、こう、なんか、あの、ま、公共の福祉に反しない限り、とかって〈{笑}、はい〉、言って〈はい〉、あの、うん、うん、ま、こう、自分の、その、個人の自由を〈うん〉、すごく、こう、尊重して、うん、る国だと思うんですけど。

やっぱり、ある程度、こう、こう、決まりを作らないと〈うん〉、いろんな方向に、その、人間って、行ってしまっ、ま、だからって、なんか、こう、ま、なんと言うんだろうな、なんか、うまく言えないです。

A005

\*、中国は、なんと言えいいんだろう <{笑}>, {笑}, うん, まあ, 確かに厳しくて, 学校の, その, 決まりとかも <ん> いっぱいあって, うん, もう, 確か小学校のときから, \*, ちゃんと座ってって言われると, 両手を, こう, 後ろにやって, みんなこうやって座るんですよ <うん>。

こう, 手, なんか, 下で, なんか <うん>, やらないようにって。

\*、そういうのも, 日本では全然ないし, \*\*, 中国のほうが厳しいんですけど, たぶんそういう中で, その, 本当の友情って生まれるんだな, って思いますね。

T: その, 厳しい中で?。

I: はい。

T: は一。

I: やっぱ, なんか, 日本は, その, 生活の, なんて <ん一>, 水準が高い, なんか, こう, \*, 日本人で <うん>, あの, 生きることでも悩んでる人って, あんまりいないじゃないですか。

こう, あしたは食べるご飯はあるのかな <うん>, って, 住むところがない, どうしよう, って <うん>, そういうふうになってる人は, うーん, たぶん, あんまりいないと思いますが, だから, うーん, こう, ちゃんと生きれること <はい> を, 全部, こう, 保障している <はい>, \*, 日本は…

T: むず, なかなか, はい…

I: やっぱり, \*, 人間, そういう国で生きる人って, なんか, もっと, こう, 上のことを求めて <はい> しまっ, こう, うん…

T: わかりました。

なかなか難しいですね, そのあたりね。

I: うん, はい {笑} <はい>。

\*, うまく言えない…

T: すいません, じゃ, ちょっと, 1つ, ごめんなさい {笑}, ロールプレイをやっていただきたいので <ん一>, これ, ちょっと, こ, あ, 自転車乗りますか?。

I: ん一, たまに乗ります。

T: たまに乗りますか。

I: はい。

T: じゃ, 自転車で, 交差点でぶつかったという, こういう話で <はい>, 2人の自転車, 交差点でぶつかっちゃって <はい>, 両方壊れちゃったんですけど, はい, あの, 【I】さんは悪くないと, 自分が思っている。

I: はい。

T: そう, という状況で, 2人ぶつかりました。

ちょっと, ここで, あの, 話をしたいんですが。

I: あ, はい。

T: はい。

うし, 裏に, 一応, 中国語も, ちょ, あるんですけど, いいですか?。

I: あ, はい {笑}。

うーん <はい>, \*, \*, \*?。

T: 大丈夫ですか, ロールプレイなんですけど, わかります?。

I: わかんないです。

T: ロールプレイっていうのは, 今, その役を【I】さんがやって…

I: あ, で, その人を, あ…

T: わた, 相手の人がわたしです。

だから, 知らない <はい> 人と交差点でぶつかった, っていう設定で, 話を。

I: あ一, はい。

T: 大丈夫?。

やってみましょうか。

I: ま, 初めてなので, うん, はい…

T: 初めて, はい, やってみましょう。

I: はい。

T: はい, じゃ, ガシャーンと。

ちょっと, 気をつけてください。

A005

危ないじゃないですか。

I : いや、今のは、どちらかというと、あなたのほうが悪かったじゃないですか。

T : いやいや、わたし、ちゃんとよく見て、真っすぐ行ってたんですよ。

I : いや、わたしだって、ちゃんと運転してましたよ。

T : いや、わたし、ちょっと、壊れて困るんですけど、これ弁償してもらえますか？。

I : \*、でも、わたしも壊れてますよ。

T : えー、そんなこと言われても、よく見ていなかったんじゃないですか、最近の高校生は？。

I : あたしは、ちゃんと見てましたよ。

T : えー、でも、最近の高校生、もう、いつも、け、あの、わき見したりして、危ないじゃないですか。

I : いや、最近の高校生だからといって、あたしも、その中に入るとは限らないし、あたしはちゃんと見てましたよ。

T : そうですかね。

あの、さっき、なんか、よく、よそ見してたような感じでしたけど？。

I : いやいや、わたしはちゃんと運転してましたよ。

T : えー、でも、わたしなんか、ほら、この自転車見てくださいよ。

もう、まだ新しいのに。

I : あー、でも、いや、あたしは、{笑}、悪くないですよ。

T : そうですかね。

I : はい。

T : じゃ、ちょっと、あの、ちゃんと交番に行って、一緒に話を聞いてみましようかね。

I : あー、じゃ、行きましようか。

T : はい、じゃ、わかりました。

また、そうしましようか。

じゃ、あの、あそこの交番に、じゃ、行きましよう。

I : はい。

T : はい。

という、ちょっとすいません <{笑}>、けんかの、けんかのことをやってもらいました。

どのくらい、がんばれるかみたいな、すいませんでした {笑}。

I : いえいえ。

T : え、いつ、いつもは自転車には乗らないんですか？。

I : あ、はい。

学校から家、遠いんで <あー>、いつもは車で、\*\*…

T : 送ってもらおう。

I : はい。

T : あー。

毎日、送り迎えですか？。

I : ほぼ毎日ですね。

T : は一。

どなたが送り迎えを？。

I : どっちもあるんですけど <あー>、た、んー、あいてるほうが {笑}。

T : \*、お嬢さまですね <いやいや、いやいや>、大切な {笑}。

あの、今日は、じゃ、あの、O P I の、この、テストというのはいこまでにして…